

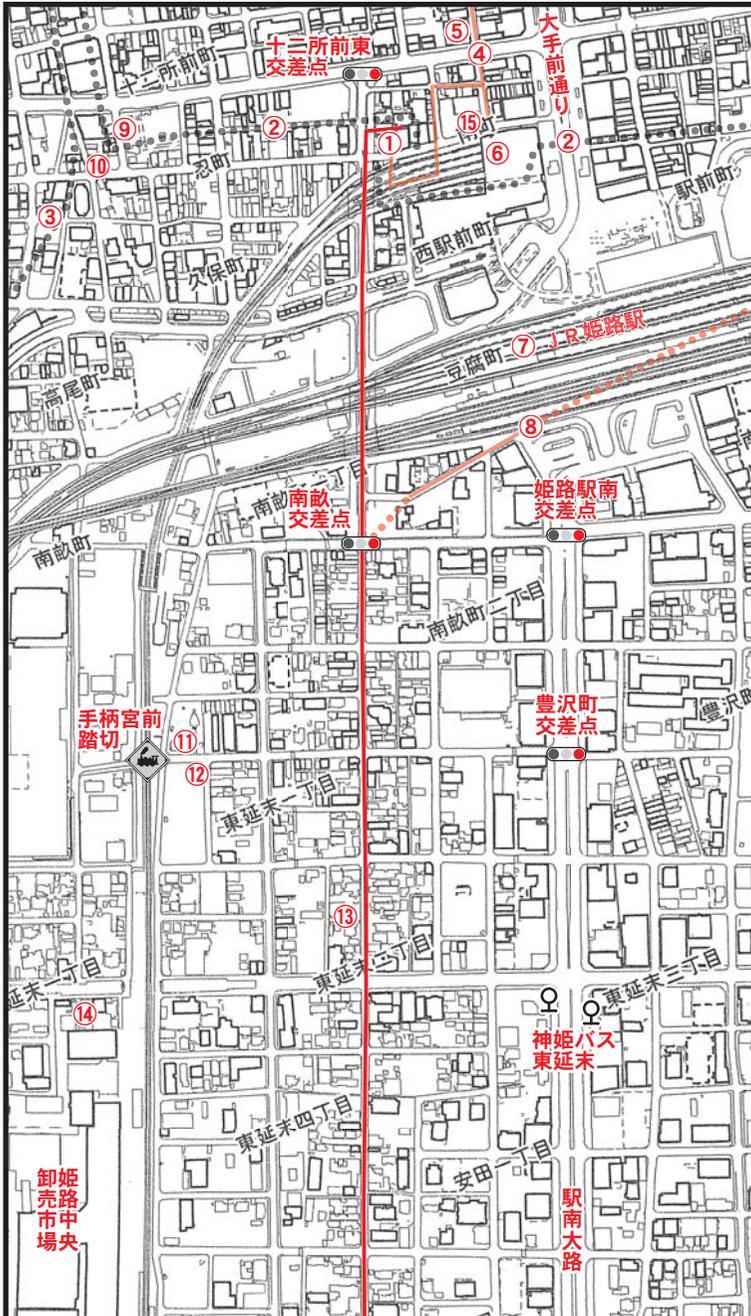


『飾磨街道』をたずねて

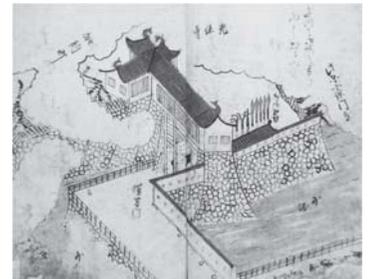
飾磨街道(「飾万道」「飾万津道」)は姫路城飾磨門(〈図1〉①)から飾磨津まで(ここでは東堀南端としています)、ほぼ直線に敷設された約4kmの計画道路。「慶長播磨国絵図」では姫路町と飾磨津を結ぶ道が見え、東堀で西に折れ知寶寺(〈図3〉⑰)前で南下、御幸橋(〈図3〉⑳)を西に渡り姫路藩御蔵(飾万御倉、〈図3〉㉑)の東を南下し浜(〈図4〉⑥付近)に到るとみられ終点は姫路藩御蔵だったとみるのが妥当でしょう。飾磨門外から飾磨街道沿いの町場9町(亀山本徳寺領亀山町を除き、方豆腐町・忍町・外豆腐町・南畝町・延末町・安田町・栗山町・三宅町・飯田町)は飾磨津11町(須加町・大町・宮町・御幸町・東堀町・田町の裏手6町、細江町・上町・下英加町・上英加町・都倉町の岡手5町)と合わせて飾磨津20町といひ姫路藩町奉行所の管轄下で飾磨津町会所(〈図3〉⑬)で4人の大年寄が支配しました。なお飾磨津物揚場から生野鉾山までの馬車道は東堀南端から現南畝町交差点付近(〈図1〉⑧)まで江戸時代の飾万道を転用し明治9年(1876)の竣工です。

飾磨街道ルートは赤実線(——)、馬車道・浜街道は薄赤(——)と推定の破線(.....)で示します。
沿道の文化財は赤丸数字(①②...)、主な国道・河川・交差点やバス停等は赤字で記します。

〈図1〉



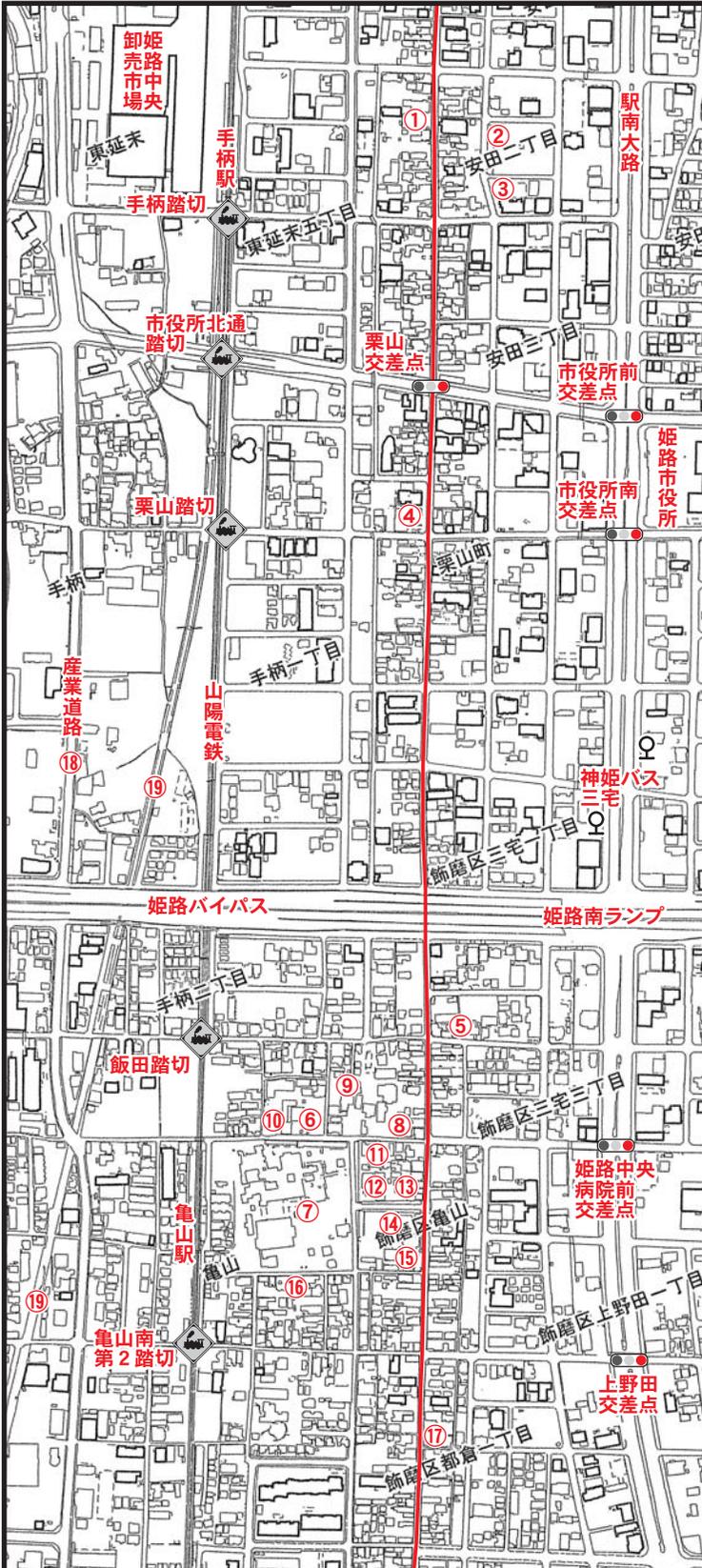
① 姫路城飾磨門(飾万門、飾磨口門、飾万口門、北向きの脇門付き櫓門で瓦葺き、門の北に多門と番所、櫓門を北に出て西に進み飾磨街道を南)



飾万門図(姫路市立城内図書館蔵「幾蔵図」)
図右下の道右方向が飾磨津

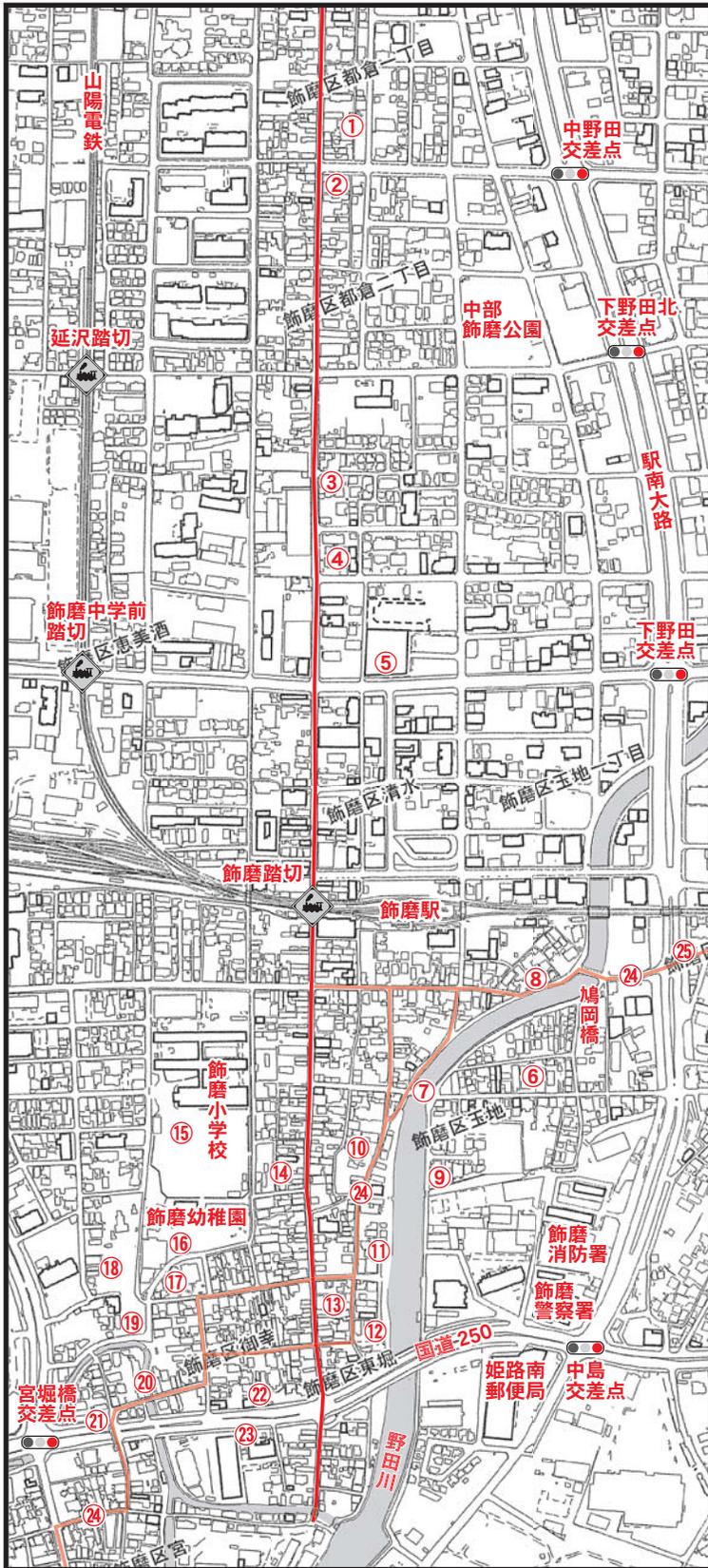
- ② 姫路城外堀跡
③ 船場川跡
④ 姫路城大手筋
⑤ 姫路市役所発祥地(明治22年(1889)現中国銀行の地に開庁、明治30年(1897)北条口、昭和22年(1947)現姫路市美術館、昭和55年(1980)現庁舎に移転)
⑥ 山陽姫路駅(大正12年(1923)開業・山陽百貨店(昭和27年(1952)開業)
⑦ 姫路駅(明治21年(1888)開業)
⑧ 馬車道跡(南畝交差点付近まで江戸時代の飾万道を転用、それより東北にルートを敷設し姫路城外堀東ラインを北上)
⑨ 十二所神社(延長6年(928)南畝の字大将軍に創建、安元元年(1175)現在地に遷座という、境内に「播州皿屋敷」伝説で知られるお菊神社)
⑩ 姫路藩家老本多家下屋敷跡(竊案園跡、船場川より引水した池泉回遊式庭園、戦災焼失)
⑪ 大年神社(飾西郡延末村の氏宮、境内に慶応3年(1867)石燈籠、「長うねの愛大としの宮柱」と詠まれたように当地はもと長畝、16世紀前半に延末村、17世紀前半に飾磨街道筋が延末町、18世紀前半までに東延末村と西延末村を分村)
⑫ 日切地藏
⑬ 法専坊(真宗大谷派、明応年間(1492~1501)本願寺実如上人の命で播磨に下向した空善の開基、播磨六坊の一つ)
⑭ 延末地藏堂
⑮ 光徳寺跡(浄土真宗本願寺派、明応元年(1492)飾磨津に建立、開基善准、光源寺とともに城下移転、戦災焼失後西阿保に移転)

◁図2▷



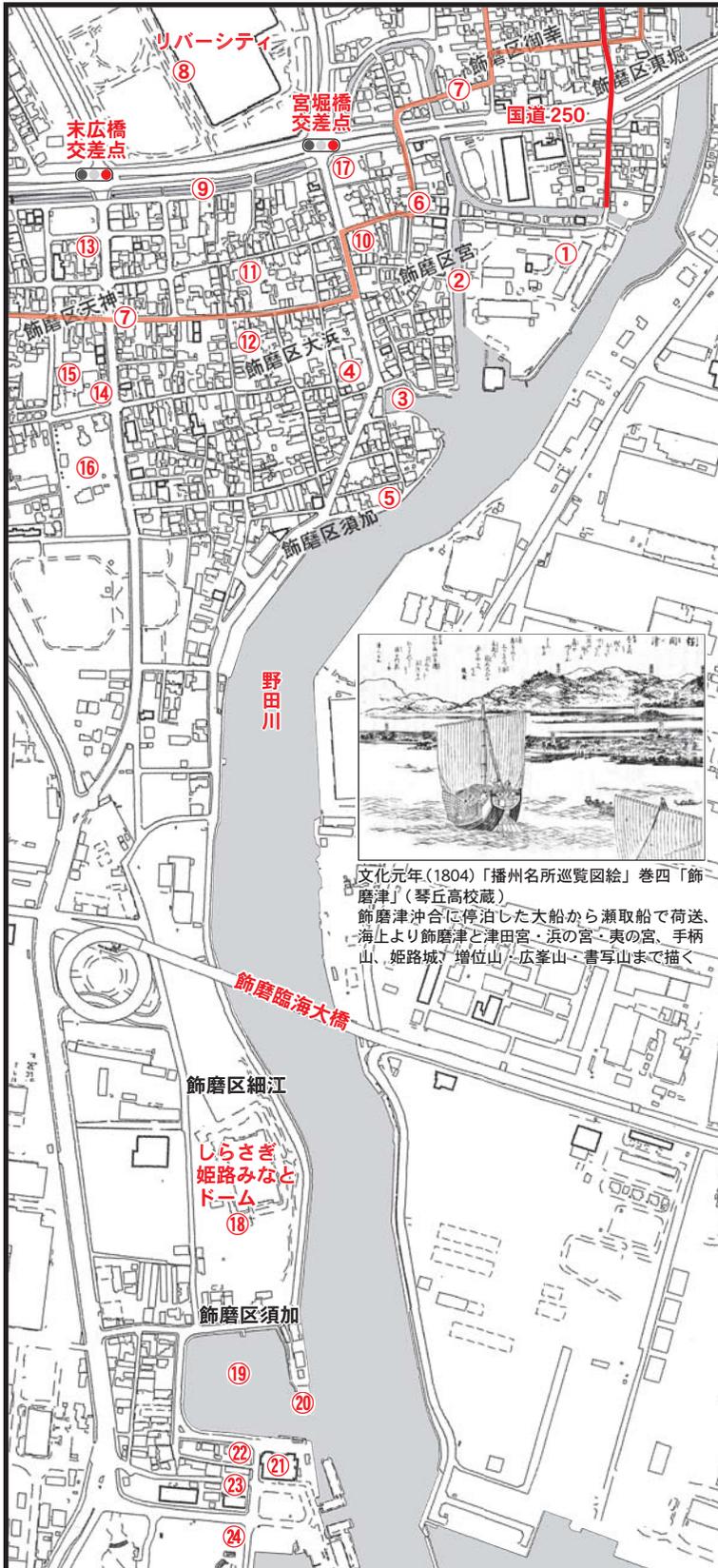
- ① 浄円寺（浄園寺、真宗大谷派）
- ② 鞆田神社（飾西郡安田村の氏宮、約4km北の桑原村から漂着した御神体を現東延末一丁目付近に鞆田大明神として祀り、更に現東延末三丁目付近に遷座、明治に到り友田神社と改称、戦後約300m南西の現在地に遷座、昭和57年鞆田神社と改称、境内に文久元年（1861）手洗石）
- ③ 夜啼地蔵（天正古図に記され15世紀の逸話を伝える）
- ④ 法円寺（浄土真宗本願寺派、天正8年（1580）建立、開基休意、享保8年（1723）木仏寺号付与）
- ⑤ 三宅地藏堂・伝児島高德供養塔
- ⑥ 金剛宝地藏
- ⑦ 本徳寺（亀山御坊、亀山本徳寺、浄土真宗本願寺派、明応2年（1493）空蓋が建立した英賀東かりや道場が淵源、開基蓮如上人、本徳寺一世は本願寺九世実如上人第五子実玄、天正10年（1513）秀吉の命で英賀御堂を亀山に解体移転、寺領300石のち500石、慶長7年（1602）本願寺東西分立に東本願寺に帰属、慶長14年（1609）西本願寺に帰属、東本願寺派の本徳寺は元和4年（1618）船場に建立、大門棟札から宝永大地震で寺内大破、境内に県指定の本堂・大広間・経堂など文化財多数）
- ⑧ 光養寺（浄土真宗本願寺派、永正11年（1514）英賀に建立、開基は石黒源太郎（入道光養）、天和2年（1682）中興開基遺祐）
- ⑨ 勝久寺（浄土真宗本願寺派、元和5年（1619）建立、開基浄源、宝暦5年（1755）木仏寺号付与）
- ⑩ 浄福寺（浄土真宗本願寺派、蓮如上人常隨の弟子教賢の開基、本徳寺とともに英賀より当地に移転）
- ⑪ 光照寺（浄土真宗本願寺派、天文19年（1550）建立、開基空道、安永7年（1778）木仏寺号付与、本徳寺諸役四ヶ寺の一つ、英賀より移転）
- ⑫ 眞行寺（浄土真宗本願寺派、元和4年（1618）建立、開基覚円、延宝3年（1675）木仏寺号付与）
- ⑬ 正龍寺（浄土真宗本願寺派、天正8年（1580）建立、開基常賢、延宝2年（1674）木仏寺号付与、英賀より移転）
- ⑭ 法受寺（浄土真宗本願寺派、寛永11年（1634）建立、開基什円、延宝8年（1680）木仏寺号付与）
- ⑮ 法性寺（浄土真宗本願寺派、永禄10年（1567）建立、開基円明、寛文13年（1673）木仏寺号付与、英賀より移転）
- ⑯ 長榮寺（浄土真宗本願寺派、寛正6年（1465）浄円が飯田に建立）
- ⑰ 西徳寺（浄土真宗本願寺派、永正13年（1516）建立、開基了西、宝永7年（1710）木仏寺号付与）
- ⑱ 産業道路（県道62号姫路港線、国道250号宮堀橋交差点～国道2号白鷺橋交差点、昭和11年（1936）竣工）
- ⑲ 旧国鉄飾磨港線跡（播但線飾磨港支線、明治28年（1895）開業、昭和61年（1986）廃止）

<図3>



- ① 白玉稲荷大明神 (都倉町)
- ② 御旅所跡碑 (恵美酒宮天満神社秋季例祭の本神事には都倉町まで神輿巡幸)
- ③ 清水薬師井戸跡碑 (「播州名所巡覧図絵」に國中第一の水)
- ④ 薬師寺 (東寺真言宗東光院、清水の薬師堂、伝仲哀天皇創建、正徳3年(1713)恵賢法師中興開基)
- ⑤ 清水構居跡推定地 (英賀に属する森崎主殿介の構居、天正8年(1580)秀吉攻略)
- ⑥ 稻生社 (玉地のお稲荷さん、もと姫路藩御船役所の鎮守、安政6年(1859)役所内から当地に遷座、境内に文久2年(1862)御船役所寄進の井戸、手洗石)
- ⑦ 向島橋
- ⑧ 飾磨津番所跡 (伊能忠敬飾磨絵図に飾磨津入口、浜街道東の入口)
- ⑨ 姫路藩御船役所跡碑 (池田輝政は備前堀(三左衛門堀)の掘削土で埋立てた向島に姫路藩水軍基地=姫路藩御船役所を設置し御船手組を置いた)
- ⑩ 有本芳水生家跡碑
- ⑪ 船繋ぎ石 (東堀船着場、かつて野田川西岸の飾磨大橋付近から北に等間隔にかなりの数があったという)
- ⑫ 嘉永元年(1848)道標 (東堀公民館北、正面「右 川口 あほし 室津」左側面「ひめぢ ひろみね やか そね 高砂」右側面「嘉永元年戊戌五月 東堀町」)
- ⑬ 飾磨津町会所跡 (飾磨津裏手2名、岡手2名、計4名の大年寄が姫路城飾磨門以南の飾磨津20町の町政を担当)
- ⑭ 田中薬師堂 (寛延元年(1748)手洗石)
- ⑮ 飾磨小学校 (明治6年(1873)創立の本徳寺内の飾磨学校、東堀町会所の飾磨学校、都倉西徳寺内の飾磨学校、天神救護寺内の飾文学校、中島西部の中島学校が淵源)
- ⑯ 飾磨幼稚園 (明治39年(1906)創立)
- ⑰ 知寶寺 (浄土宗、もと天台宗光明寺、花山法皇巡拝という、「峯相記」は文永年間(1264~75)に雲大夫入道が飾万津に光明寺建立と記す)
- ⑱ 恵美酒宮天満神社 (天満神社、伊能忠敬「飾磨絵図」にエビス天神、飾磨橋東8地区の氏宮、旧郷社格、正徳4年(1714)橋西の浜の宮とも神輿を造営し神幸式開始、秋季例祭10月8日宵宮・9日本宮、台場練りは市指定無形民俗文化財、境内に姫路藩西洋帆船を描いた市指定「神護丸図絵馬」、天和3年(1683)石鳥居、元禄11年(1698)石燈籠、天保13年(1842)力石ほか多数の石造品)
- ⑲ 浜先御旅所 (もとは宮堰川(船場川)河口部の入江で船だまり)
- ⑳ 御幸橋 (「飾万里基解録」は名称の由来を花山院、後醍醐院の御幸と記す、江戸時代に御幸橋より東部を橋東、西部を橋西と称した)
- ㉑ 飾磨御蔵跡碑 (池田輝政は御幸橋西側にあった浜の宮を須加に遷し姫路藩御蔵を設置)・飾磨市役所跡碑 (明治22年(1889)飾磨津11町・細江村・恵美酒村・亀山町が合併して飾磨町、その後中島村・高浜村・津田村・英賀保村・妻鹿町を編入、昭和5年飾磨市、昭和21年姫路市と合併)
- ㉒ 稱念寺 (真宗大谷派、三木別所一族の高橋正慶が出家して建立、寛文年間(1661~73)東本願寺に帰属)
- ㉓ 姫路藩御茶屋跡碑 (池田輝政が設置した藩主別邸、御幸橋の東側)
- ㉔ 浜街道 (東は高砂方面、西は網干・室津に到る)
- ㉕ 道標 (正面「右 曾根 高砂 左 御着 野田」左側面「左 室津 あほし道」右側面「左 ひめぢ」背面「文久」)

＜図4＞



文化元年(1804)「播州名所巡覧図絵」巻四「飾磨津」(琴丘高校蔵)
 飾磨津沖合に停泊した大船から瀬取船で荷送、海上より飾磨津と津田宮・浜の宮・夷の宮、手柄山、姫路城、増位山・広峯山・書写山まで描く

- ① 飾磨津物揚場跡(幕府から生野鉦山を接收した維新政府は鉦山の近代化に必要な機械・石炭燃料等輸送のため専用貨物港「飾磨津物揚場」と鉦山までの馬車道を敷設)
- ② カラミ石(物揚場護岸に生野鉦山で精錬した銅の鉦滓(こうさい)を使用)
- ③ 魚屋堀(飾磨津町大年寄の一人魚屋彦太夫が門前に開いた堀、昭和6年臨海道路建造に際し大半埋立て)
- ④ 魚屋堀跡碑・志土上陸地碑(七卿の一人沢吉嘉を擁した平野国臣らは文久3年(1863)10月3日に三田尻(現防府市)出帆、9日当地に上陸、大浜で宿したのち10月12日に生野代官所占拠)
- ⑤ 姫路藩浦手番所跡碑(飾磨津川口御番所ともいい燈籠台管理・出入船舶検問・御茶屋と飾磨御蔵警備等)
- ⑥ 道標(正面「右あほしむろつ」左側面「そなたかさこ」右側面「福本屋と七良 松屋元吉」)
- ⑦ 浜街道
- ⑧ 敷島紡績跡(大正2年(1913)福島紡績飾磨工場操業、昭和19年敷島紡績に吸収、平成8年頃まで煉瓦造りの工場が残っていた)
- ⑨ 宮堀川(船場川、元和7年(1621)船場川改修、姫路城西から南流する船場川は国道250号思案橋付近でほぼ直角に東進し恵美酒宮門前で湾曲して南流、城下船場と飾磨津間を数多の高瀬船往来、水上交通の大動脈)
- ⑩ 立江地蔵(浜街道はここで一筋南進して西進)
- ⑪ 安楽寺(浄土真宗本願寺派、天文19年(1550)建立、開基元誓、英賀より移転、天保3年(1832)木仏寺号付与)
- ⑫ 圓光寺(旧大町、真宗大谷派、寛文10年(1670)魚屋彦太夫家支援で建立)
- ⑬ 了覚寺(旧上町、浄土真宗本願寺派、文禄3年(1594)建立、開基了心、元禄8年(1695)木仏・宝永4年(1707)寺号付与)
- ⑭ 救麟寺(旧細江町、浄土宗西山禪林寺派、寛文年間(1661~72)建立、開基一空泰准、本堂戦災焼失、安永4年(1775)鐘樓門、本堂は昭和27年(1952)龜山本徳寺説教所を移築)
- ⑮ 芳蓮寺(法華宗(真門流)正保2年(1645)建立、開基本覚院日蓮)
- ⑯ 浜の宮天満宮(天神社、伊能忠敬「飾磨絵図」に天神社、飾磨橋西10地区の氏宮、旧郷社格、正徳4年(1714)橋東の恵美酒宮とも神輿を造営し神幸式開始、秋季例祭10月8日宵宮・9日本宮、台場差しは市指定無形民俗文化財、境内に元禄12年(1699)石燈籠、宝暦10年(1760)石鳥居、天保13年(1842)力石等石造品多数、明治11年(1878)神牛像台石に北陸の北前船主と地元周旋人を刻名)
- ⑰ 浜の宮御旅所(宮町公園、姫路藩御蔵建造のため池田輝政により浜の宮を当地から須加に移転、元宮として神輿渡御)
- ⑱ 飾磨港線飾磨港駅跡(駅名板は姫路みなとミュージアム〔図4〕②に展示)
- ⑲ 湛保(飾磨津は浅瀬のため北前船など大型船は沖合に停泊し瀬取船等で運搬していたが弘化3年(1846)湛保を築造し大型船停泊を可能にした、西側と北側に棧橋の雁木が残る)
- ⑳ 藤田祐右衛門顕彰碑(湛保築造・飾磨津繁栄の功績を顕彰)
- ㉑ 姫路みなとミュージアム(姫路ポートセンター2階)
- ㉒ 海神社(もとは湛保東南隅に祀られていた)
- ㉓ 姫路藩御台場跡碑(文久3年(1863)海防のため湛保南側に築造、大砲4門配備、異国船発見の際は飾磨津裏手番所〔図4〕⑤→大浜の圓光寺〔図4〕⑫→龜山本徳寺〔図2〕⑦→東延末の法専坊〔図1〕⑬→城南町の光源寺〔図1〕⑮へ早鐘で伝達)
- ㉔ 飾磨湛海水浴場跡碑(明治25年(1892)砲台跡に開業)